

トンガ (Tonga) 王国国民の憂い (首相が中国に国を乗っ取られると発言)

(第3回) 関東支部 浦野勝雄

今回はトンガでの中国人商店についてです。第2回で書きましたように、トンガは基本的に無競争社会です。そこへ競争社会の覇者である働き者で商売上手な中国人が入ってきて、長時間働きますから、とても勝負になりません。

日常雑貨、建設資材の販売に加えインフラ整備まで中国人が主導権を握り始めています。新しい政府庁舎が2018年中国企業と中国人により完成しました。ポヒヴァ首相が2017年に「トンガは中国に乗っ取られる」と発言した翌年です。中国がすぐに反発しました。国王が2018年3月中国へ出向き、引き続き経済支援を受けると約束、当面の返済を先延ばししたとAPCUニュースが報じています。

生活のほぼすべてを中国人に頼らざるを得なくなっています。平民は王様がどんなことを考えているのか分かりません。このような状態にトンガの国民は苛立ちと自分たちではどうにもならない絶望に近い感情を持って不思議ではありません。現在もトンガ・中国友好協会の会長は王女だそうです。



王家族屋敷入り口だったと思いますがどなたか忘れまして。
両側のライオン像は中国の影響か？



中国企業

トンガの責任と中国人問題

人口 10 万人たらずの島に中国人が公式には 2 0 0 0 人いるといわれていますが、実際には倍くらいいるといわれています。人口の 2~4%が中国人です。

「2017 年 4 月ポヒヴァ首相は一部の中国人が殺し屋を雇い中国コミュニティー内の商売敵を襲わせているといった」と NEWSWEEK で報じられました。狭いトンガ王国に多くの中国人が入国し、みな商売をはじめると、客数は限られているのでお客の奪い合いになり、トラブルが発生するらしい。

トンガで発生する事件の 3%は中国人で、中国社会内の犯罪を入れると、おそらく倍の犯罪は起きているといわれています。運転手も走行中多くの中国商店が増えているのを小生に示しながら、近いうちに中国人にトンガは乗っ取られると言っていました。

別のトンガ人も同様のことを私に話し、またこんなことも言っていました「中国人は貧しいトンガ人から金を巻き上げ、トンガ社会に貢献しないで住みつき、日本人はいろんなものを持ってきて、トンガに貢献してくれ、すぐ帰ってしまう。」

トンガへ行く日本人は主に ODA 関係や民間支援団体などの人達だと思います。日本はあらゆる部門の支援をしていますので、日本の支援方法をよく言い現わしていると思います。

国交樹立

トンガは 1998 年 11 月中国と国交を樹立しました。その後中国の経済支援で中国人作業員の入国が増加し、プロジェクト終了後も彼らは国へ帰国しないでトンガで商売を始めたと、トンガ人は言っていました。ほかの国でも同様のことを聞いています。

中国は OECD 諸国と同じように、トンガで資金（無償、有償）援助、インフラ建設援助など経済援助をしています。特にインフラに力を入れています。建設時に多くの中国人を入国させ、トンガ人を使わず中国企業が中国人だけで建設します。日本はじめ OECD 諸国の支援の仕方と違うところです。

一帯一路計画の場合と同じだと思いますが、相手国へインフラ設備建設の資金を貸与して、中国人の会社が建設します。この資金の金利はウイキペディアによると 6.3%だそうです。日本の場合はいろんな条件がありますが 10 分の 1 くらいだったと思います。中国の場合、建設した設備が稼働したら返済が始まると言います。詳しいことは分かりません。

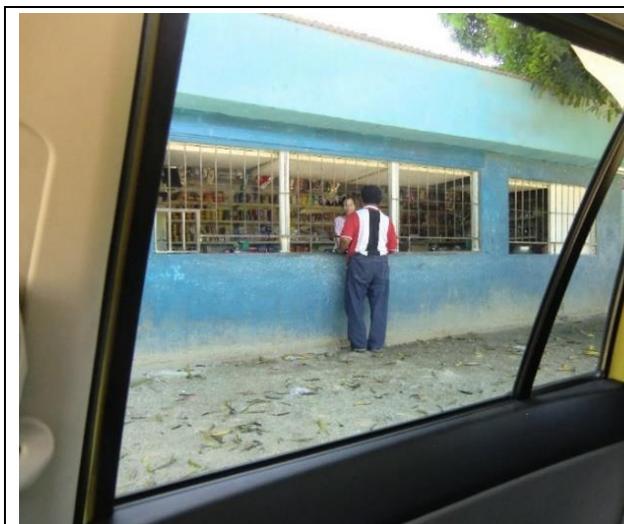
本当かどうかわかりませんが、信じられないことですが開発途上国はインフラ設備建設計画時に事業の採算性を考える人がいないか、知識がないと言われていました。スリランカ人やパキスタン人が事業の採算性を計算できないとは考えられませんから、もっと深いところに核心があるのかもしれませんが。

トンガも、採算性無視のインフラ設備を建設した場合、例えば政府庁舎のように建設した設備からの収益がありませんので、債務返済ができません。どうするのでしょうか。出かせぎ者の送金から返済するのでしょうか、現状でも不足している予算から、何かを犠牲にしなければなりません。

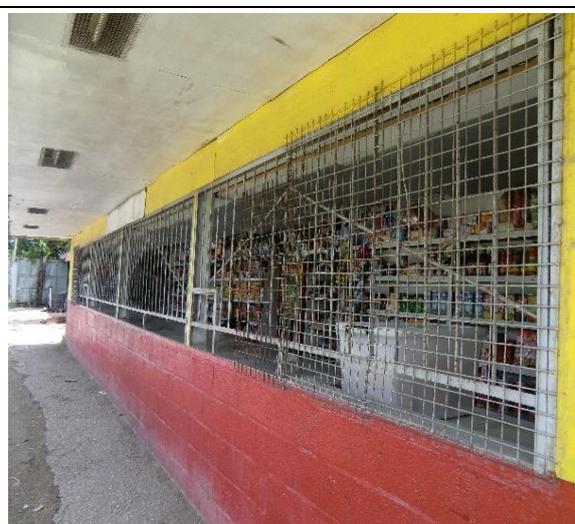
中国人経営の商店

トンガでは2009年から2016年の間に移住した中国人による小売業が増加し、商品を中国から直接仕入れ、トンガ人に販売します。トンガ人は中国人と同じ商品を販売しても商売にならないことは明白です。そこでトンガ人は農業で芋類、野菜、果物などを主に生産販売することになります。農業へも中国人が参入してきました。土地は持てないはずですが、そこは中国人、不可能なことはないのでしょうか。

鉄格子付き小売商店（日常雑貨販売 日本コンビニのような店）



中国人経営のトンガ式コンビニで
煙草を買う運転手



水を購入した店

鉄格子付き小売商店（トンガ式コンビニ）がトンガタブ島、ババウ島のいたるところにあります。日本のコンビニのような店で日常商品、食品、雑貨などの販売をしています。店頭は鉄格子で店の前に入り口はありません。客は中へ入れませんが、商品は見えます。客は外から欲しい商品を要求すると中の中国人店員、主に女性が小さな窓口から商品を現金と交換で出してくれます。

トンガの中国人経営のトンガ式コンビニが何店あるか分かりませんが、日本のコン

ビニ出店の条件を参考に考えてみました。日本の場合は徒歩で10分以内に行ける範囲、半径500m以内に人口が3,000人以上だそうです。ただしビル内出店のような狭い範囲での出店の場合は内部の人口（働く人）が1500人以上だそうです。トンガの場合ほかに店はありませんから、人口が2,000人だとするとトンガタブ島の人口が75,000人ですから37店、3,000人だとすると25店です。私の感覚では37店以上と思います。そのほかに中国製の工業材料や建設資材を販売する店があります。

中国人はトンガ人を対象に商売をして、利益をあげていますが、税金を払っていないと聞きました。本当かどうかわかりませんが、もし本当だとすると、何らかの約束があるのでしょうか。小売業の80~90%は中国人だそうです。

世界中が中国商品により恩恵を受けていますが、トンガは島内どこへ行っても中国商品と中国人商人です。トンガ人の小売店はほとんどないと思われるくらい見当たりません。トンガ人はマーケットまたは道路わきで店を出し、芋、果物、魚、衣類などを販売しています。旅人感覚から異様に感じました。

トンガ人の商店・露店商

	
トンガ人の商店 主食用バナナとヤム芋販売	トンガ人の商店 果物販売

トンガ人の小売業は写真のように、道路端で商売をするか、小さい衣料品店、床屋、美容室、などです。外国人に自国の小売商売をほぼ制覇されている国は珍しいのではないのでしょうか。ほかの開発途上国でも中国人の商店、中華料理店はありますが、トンガではトンガ人の日常雑貨を販売する商店は私の見ている範囲ではなかったように思います。

平民はマーケットへ行きます。トンガ人の食堂はババウ島に一軒トンガ人の食堂がありましたが見ませんでした。また生活物資のほとんどすべてが中国製です。



木の下で青空衣類販売



トンガ人の衣料品店

公設マーケット (タラマフ・マーケット) : 中国人の農産物販売



Net より タラマフ・マーケットの屋外店：写真の左側がマーケットの建物

ヌクアロハ中心部の近くにタラマフ常設マーケットがあります、1階は野菜、果物が中心、2階は衣類、雑貨、などの店が入っています。このマーケットだけは沢山のトンガ人が自分の持ち場ブースで商売をしていました。

2009年1階の野菜マーケットへよく出かけました。大きな体をした農家の主婦(?)がけだるそうに自分で出した野菜台の上にキュウリ、ナス、トマトなどを並べ、台の後ろに座っています、トンガ女性は体が大きすぎて簡単に動けない、台から客が品物を取り、彼女の前まで行き代金を払います。日本の感覚では愛想がない

売り方をしていました。

この時は中国人の店はありませんでした。驚いたことに、2015年、中国人の女性が野菜をこのマーケットとの中で売っていました。トンガの土地は王から借りている土地であります。簡単に中国人が土地を利用することはできないと思い、野菜販売まで中国人が始めるとは思っていませんでした。

どのようにして農地を入手したか分かりません。あるいは、農家から野菜を購入しているのかもしれませんが、中国野菜も含めて販売していました。中国人女性のブースへ近づくと、すぐに近づいてきて商品説明をしてくれました。

彼女に「トンガに来て何年ですか。」と尋ねたら「7年目だ。」と答えてくれました。たったの7年で国の公設マーケットで農産物を売り出すまでになるのです、ただただその活力に感心するばかりです。

彼女の商品台はトンガ人の2～3倍の大きさがあり、日本のスーパーの野菜売り場のように、商品の種類も多く、きれいに、ほぼ同サイズの大きさにそろえており、機敏に動き、客に商品を説明し、客のそばに来て販売し、野菜を購入するとおまけの野菜までくれます。

トンガの女性は昔のままで、競争をしてまで販売しようとする意欲がないように感じられます。競争のない自給自足に近い生活を送ってきた人たちには商売の感覚がないのでしょうか。これでは中国に乗っ取られると首相が危機感を募らせても、問題の解決になりません。何らかの対策が必要だと思います。

二ヶ国の商人の動作を見ていると、近い将来すべての商売が中国人になるのではないだろうかと危惧します。

トンガ人の親族が海外で汗水流して稼いだお金はそっくり中国人へと言うことにならないよう、どうするか考える必要があります。

中国人商人とトンガ商人

中国人の商売上手には驚かされます。どんな国へ行っても、その土地に入り込み、現地人より良く働き、商品も数をそろえ、見た目もきれいに包装し、商品としての価値を付け、かつ、同じ価額か少し安めに値をつけます。

現地の商人は伝統的にそうであったのですが、とれた野菜をそのまま、大小様々な形の農産物をミックスして並べます。見た目が悪いので客は中国人のブースで買いものをしています。中国人は、本国で中国人と競争するより外国で、その国の人と競争するほうが楽だと言っています。トンガは特にそうかもしれません。

トンガ人の販売人（たぶん農家の主婦であろうと思われる）は自分の屋台に座ったまま動かないが、中国人は客が近づけばすぐに立ち上がり、客のそばで話しかけて商売します。文化の違いですが、現地人屋台は品物が少ないし、商品形状もバラバラ、値段が同じか少し高いので、現地人も中国人の商人から品物を購入することになります。



トンガの黒豚海に入り海水浴？

トンガタブでは町の中心から離れ、農村地帯に入ると、黒豚がはなし飼いされています。豚は村の中を歩き、餌を探して食べ歩いています。ある時たまたま干潮時に海岸を通過したら、豚が海へ入っていくのを発見しました。この地帯は人家が多く家庭排水を海に放出しているのので、海には写真にもあるように藻類が繁茂しています。 どうもこの藻を目当てに海に入るのでないだろうか、と思います。顔を海に入れて何かを食べていますが何を食べているのか不明です。

現地人だけのマーケットで商売しているときは問題なかったのですが、グローバル化された社会で生きるためには考え直さないと国の将来が気になります。日常雑貨、食料品の販売のみならず、産業用資材の販売、卸業ほぼ中国人が独占しています。経済は中国人なしではすでに動かない状態ですので首相が危惧するもの当然だと思います。

トンガ人は便利に感じながらも、ほぼすべての商店が中国人商店になったことに違和感と、自分たちではすでにどうにもならない無力感を感じています。

出かせぎ親族からの送金と海外からの支援はいつまでも続くとは考えられません。首相だけでなく、部外者の私でも将来どうなるのか懸念しています。



トンガ人の青空靴店



中国人経営の工業材料販売店

今回は中国人商人のトンガでの現状を書きましたが、次回トンガ政府の開発計画、主な産業の現状や日本の関わりに関して少し書いてみます。

(2021年2月15日)